



令和7年度 小規模プールの衛生管理

南多摩保健所 生活環境安全課 環境衛生担当

本日の内容

1. 小規模プールとは

2. プールの維持管理

3. 遊泳者の衛生管理

4. プール管理のまとめ

5. Q&A

50m³未満の小規模プール

- 50m³以上のプールに準じた設備と衛生管理に努めなければならない



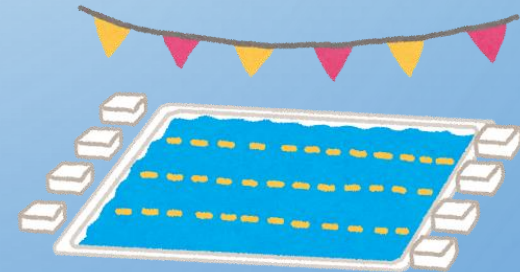
<努力義務あり>

職員がプール水や施設を介した感染症を防ぐため

- ・利用者の特性に応じた管理
- ・施設ごとの設備形態に合わせた管理

50m³以上のプール

- 条例により「措置の基準」が設けられている
 - ↳ 設備基準、施設の点検・清掃、監視員の配置等
- 保健所長の許可を受けなければならない
- プール使用月は、毎月1回以上水質検査を実施
- プール使用月は、毎月報告書を保健所に提出
- 保健所の立入検査がある



設備の点検、清掃

- 設備・遊具に破損や尖った部分はないか
- プールサイドは滑りやすくなっていないか
- プール内外に異物はないか
- 吸い込み口（排水口等）の点検



プールの準備（器材）

- 器材等に不足がないか
- すぐに使用できる状態か
- 子どもが触れない場所においてあるか

器材の準備例



職員間での情報共有

- 設備管理の方法
 - 薬品の管理、使用前の点検
- 子どもの健康管理、当日の手順
- 管理体制
- 緊急連絡時の対応、連絡体制

「だれが、どのように」



プールの水質基準（努力義務）

項目	基準値
水素イオン濃度	pH値 5.8~8.6
濁度	2度を超えない
過マンガン酸カリウム消費量	1Lにつき12mgを超えない
大腸菌	試料100mL中に検出されない
一般細菌	試料1mLにつき200CFUを超えない
レジオネラ属菌（加温の場合）	検出されない
遊離残留塩素濃度	0.4mg/L以上
二酸化塩素濃度	0.1mg/L以上0.4mg/L以下 かつ亜塩素酸1.2mg/L以下

遊離残留塩素の減少要因

- 有機物等の反応

人や汚れなどと反応して減少する

- 紫外線による分解

晴天時の屋外プールでは、紫外線により遊離残留塩素が10分間で0.1mg/L程度分解。水温30°C以上では減少が速くなる。



遊離残留塩素濃度の調整

- プールを使用する**直前**に遊離残留塩素濃度を測定

- 濃度が1.0mg/L程度になるように塩素剤を入れる
- 1.0mg/L程度になっていることを確認

➡ プール
使用開始

- プール使用中も1時間に1回は遊離残留塩素濃度を測定して記録
- 0.4mg/L以上であることを確認

塩素剤を入れる量の計算

塩素剤を入れる量 (g(グラム) 又は mL(ミリリットル)) =

$$\frac{\text{プール容量(m}^3\text{)} \times \text{増やしたい遊離残留塩素の濃度}^*(\text{mg/L})}{\text{塩素剤の有効塩素濃度}(\%)}$$

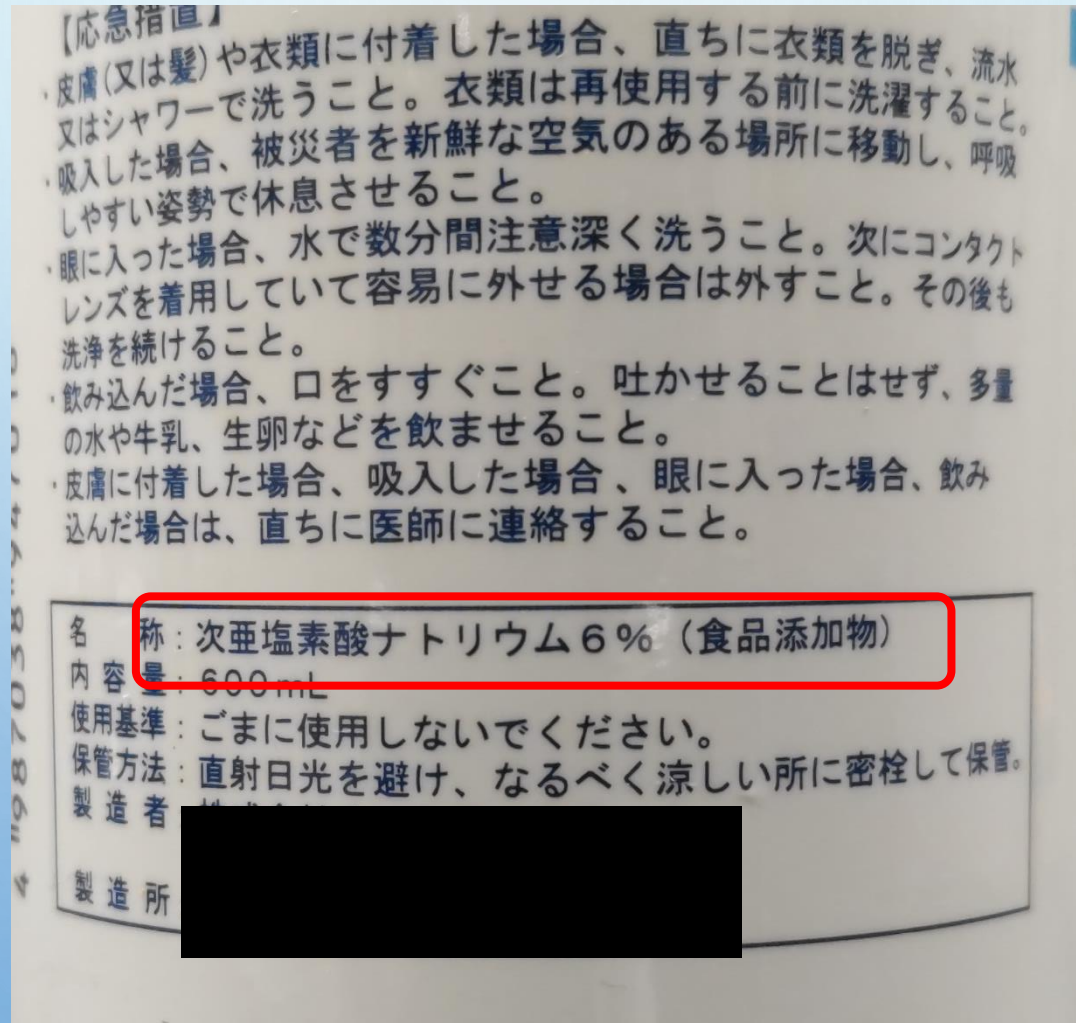
塩素剤の袋や容器に記載

※増やしたい遊離残留塩素の濃度

= プール使用時の遊離残留塩素濃度 - 現在の遊離残留塩素濃度

 塩素剤を入れたら、安全確認のため濃度を測定する

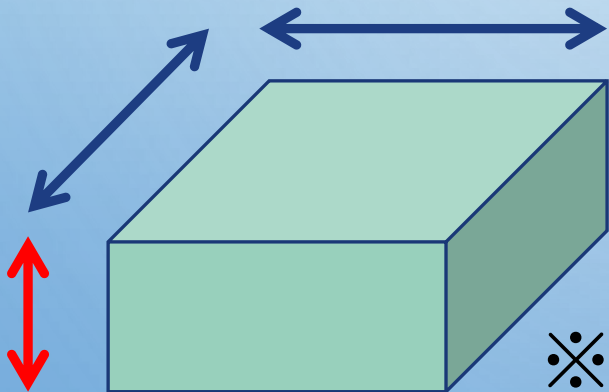
塩素剤の濃度の表示



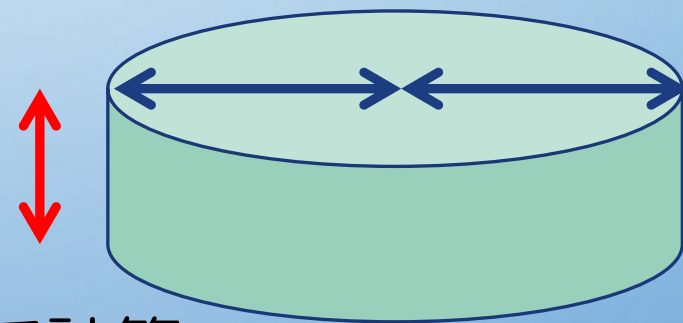
プールの容量の計算

「プール容量 (m³) = 底面積 × 深さ」

四角プール
(幅 × 奥行 × 深さ)



丸いプール
(半径 × 半径 × 3.14 × 深さ)



※単位はmで計算

入れる塩素剤の目安

- 6%の次亜塩素酸ナトリウム液を使う場合の入れる量(mL)

		増やしたい遊離残留塩素の濃度※			
		0.4mg/L	0.6mg/L	0.8mg/L	1.0mg/L
プールの 水量	1m ³	7	10	14	17
	2m ³	14	20	27	34
	3m ³	20	30	40	50
	4m ³	27	40	54	67
	5m ³	34	50	67	84

※増やしたい遊離残留塩素の濃度

= プール使用時の遊離残留塩素濃度 - 現在の遊離残留塩素濃度 14

塩素剤の管理

保管の注意点

- ☑ 子どもの手の届かない所
- ☑ 他の薬剤と分ける
- ☑ 塩素剤の種類ごとに分ける

成分	性状		有効塩素含有量
次亜塩素酸 ナトリウム	液体	アルカリ性	6%、12%
次亜塩素酸 カルシウム	固体 (顆粒・錠剤)	中性	70%以上
塩素化 イソシアヌル酸	固体 (顆粒・錠剤)	酸性	60%、90%

薬剤は絶対に混ぜない

塩素剤

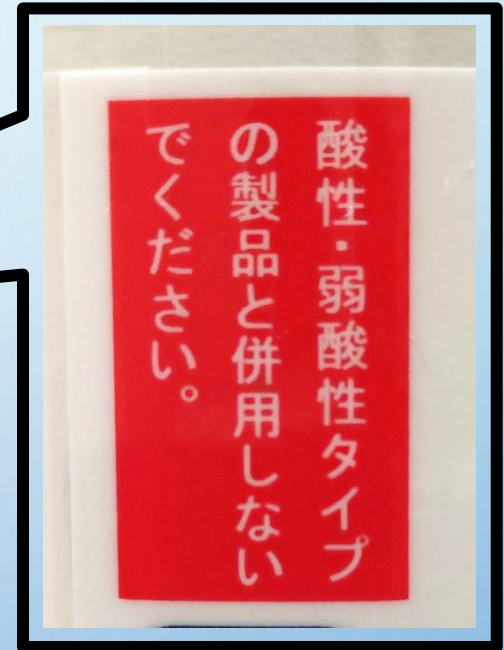
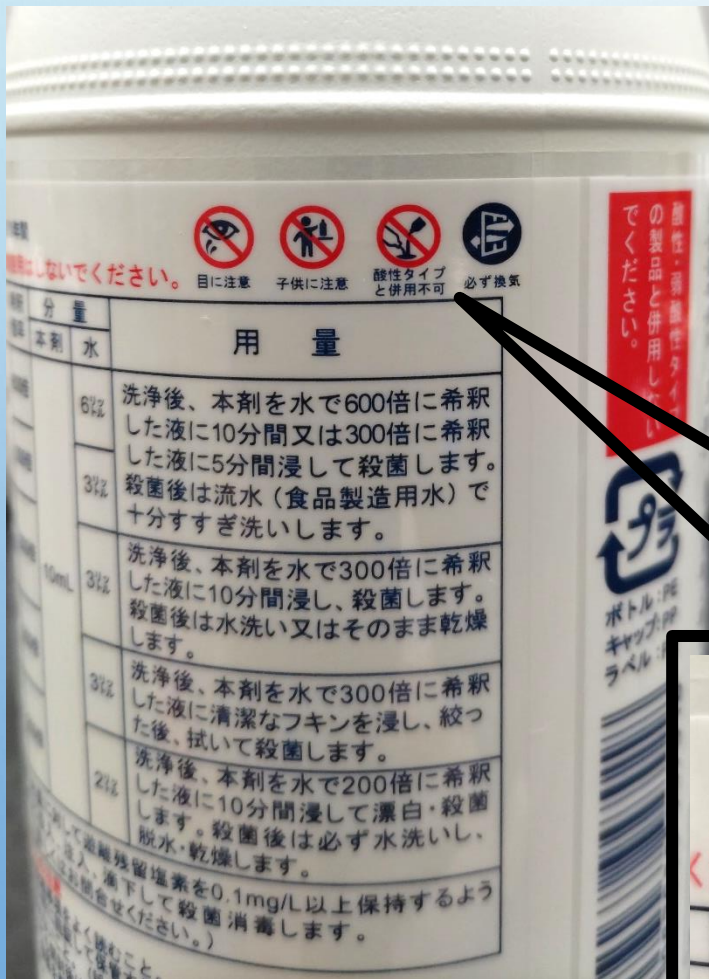
凝集剤や違う種類
の塩素剤

やめて！



塩素ガス (Cl₂)

薬剤は絶対に混ぜない



塩素剤を入れるときの注意点

- 他の薬剤を混ぜない
- プールに直接入れない
- 濃度が均等になるように入れる
- 誤飲を招く容器は使用しない



プール日誌

プール日誌 (届出プール用例示)

平成 20 年 5 月 29 日 (木) 天候 (ハレ)

管理者	担当者

クラス	遊泳人数	担当者氏名	測定時刻 時 分	気 温 ℃	水 温 ℃	遊離残留塩素濃度 m g / ℓ		塩素剤使用量 m ℓ ・ g
3年生	使用前	下ウキ	10:00	25.8	22.0	0.3→0.5	0.2→0.5	(100ml)
	38	スズキ	10:15			0.5	0.5	
	38	スズキ	10:45			0.4	0.4	
	38	スズキ	11:15			0.4	0.4	
	使用前							

〔記載内容〕

天候、気温、人数、水温、残留塩素濃度、測定時間、塩素剤の使用量と濃度など

遊離残留塩素濃度の測定（DPD法）



試薬（粉・液）
有効期限に注意する

- ・試薬を入れたらすぐに色を見る
- ・測定後は水でよく洗う
- ・セルが汚れたら交換する

健康チェック

□ 連絡帳の確認

- ➡ 発熱や下痢はないか
- ➡ 食事や睡眠はとれているか

□ 遊泳直前の健康チェック

- ➡ 風邪(咳、鼻水等)の症状はないか
- ➡ 目やにや充血はないか
- ➡ 皮膚に異常はないか



汚れの持ち込み防止

□ トイレは事前に済ませる

➡ 途中でトイレに行った場合は、もう一度体をよく洗う

□ 体の汚れをとる

➡ 水着は清潔なものを使用

➡ 温水シャワーやホースの流水で洗う

➡ おしり周りは特に丁寧に



プール活動・水遊びの事故防止

○監視体制の確保

プール活動・水遊びを行う場合は、監視体制の空白が生じないように専ら監視を行う者とプール指導等を行う者を分けて配置し、また、その役割分担を明確にすること。

○職員への事前教育

事故を未然に防止するため、プール活動に関わる職員に対して、こどものプール活動・水遊びの監視を行う際に見落としがちなリスクや注意すべきポイントについて事前教育を十分に行うこと。

プール活動・水遊びの事故防止

○緊急時の対応等

施設・事業者は、職員等に対し、心肺蘇生法をはじめとした応急手当等及び 119 番通報を含めた緊急事態への対応について教育の場を設け、緊急時の体制を整理し共有しておくとともに、緊急時にこれらの知識や技術を活用することができるように日常において実践的な訓練を行うこと。

「教育・保育施設等におけるプール活動・水遊びの事故防止及び熱中症事故の防止について」より

プール活動・水遊びの際に注意するポイント

- ① 監視者は**監視に専念**する。
- ② 監視エリア**全域をくまなく監視**する。
- ③ **動かないこども**や**不自然な動き**をしている子どもを見つける。
- ④ 規則的に目線を動かしながら監視する。
- ⑤ 十分な監視体制の確保ができない場合については、プール活動の中止も選択肢とする。
- ⑥ 時間的余裕をもってプール活動を行う。 等



子どもが遊ぶ際は、
熱中症対策をしっかりと行いましょう！

「午前中1～2時間ほどプールにいた。午後から発熱があり救急外来を受診した。」(1歳)

子どもは大人よりも身長が低いため、地面等から照り返しの影響を強く受けます。また、子どもは体温調節機能が十分に発達していないため、熱中症にかかりやすく、気温や湿度が高い日は、特に注意が必要です。

子どもが遊ぶ際は、 熱中症対策をしっかりと行いましょう！

以下のポイントを確認しながら、熱中症に注意して楽しく遊ばせるようにしましょう。

- **子どもの様子を十分に観察しましょう！**
(顔が赤い、ひどく汗をかいているなど子どもに異変がある場合には、涼しい環境下で十分な休息を)
- **こまめに水分や塩分補給し、特に遊びの最中には、定期的な休憩を！**
- **日頃から、栄養バランスのとれた規則正しい食事や適度な運動を通して、暑さに負けない体づくりをしましょう！**

水の入れ替え・点検

□ プールの水の入れ替え・清掃

➡ プール水は毎回取り替える

➡ 流水で丁寧に汚れを落とす

□ プール及びプールサイドの点検

➡ 異物や破損はないか

□ プール水を翌日も使う場合は・・・

➡ 遊泳後も消毒を行う(次の使用まで残留塩素保持)

➡ ごみなどが入らないようにシートをかける

プールに入った後は

- シャワー等で体をよく洗う
- 洗眼する
- うがいをする
- 気分が悪くなった子、怪我をした子はいないか確認
- タオル等は共用しない

管理の流れ

プールの管理

プール内外の点検
(異物や破損等)

水を張る

塩素測定 (1.0mg/L)

気温・水温チェック
(水温の目安 °C)

遊泳者の注意点

子どもたち
体調チェック

トイレを済ませる

シャワー等で
汚れを落とす

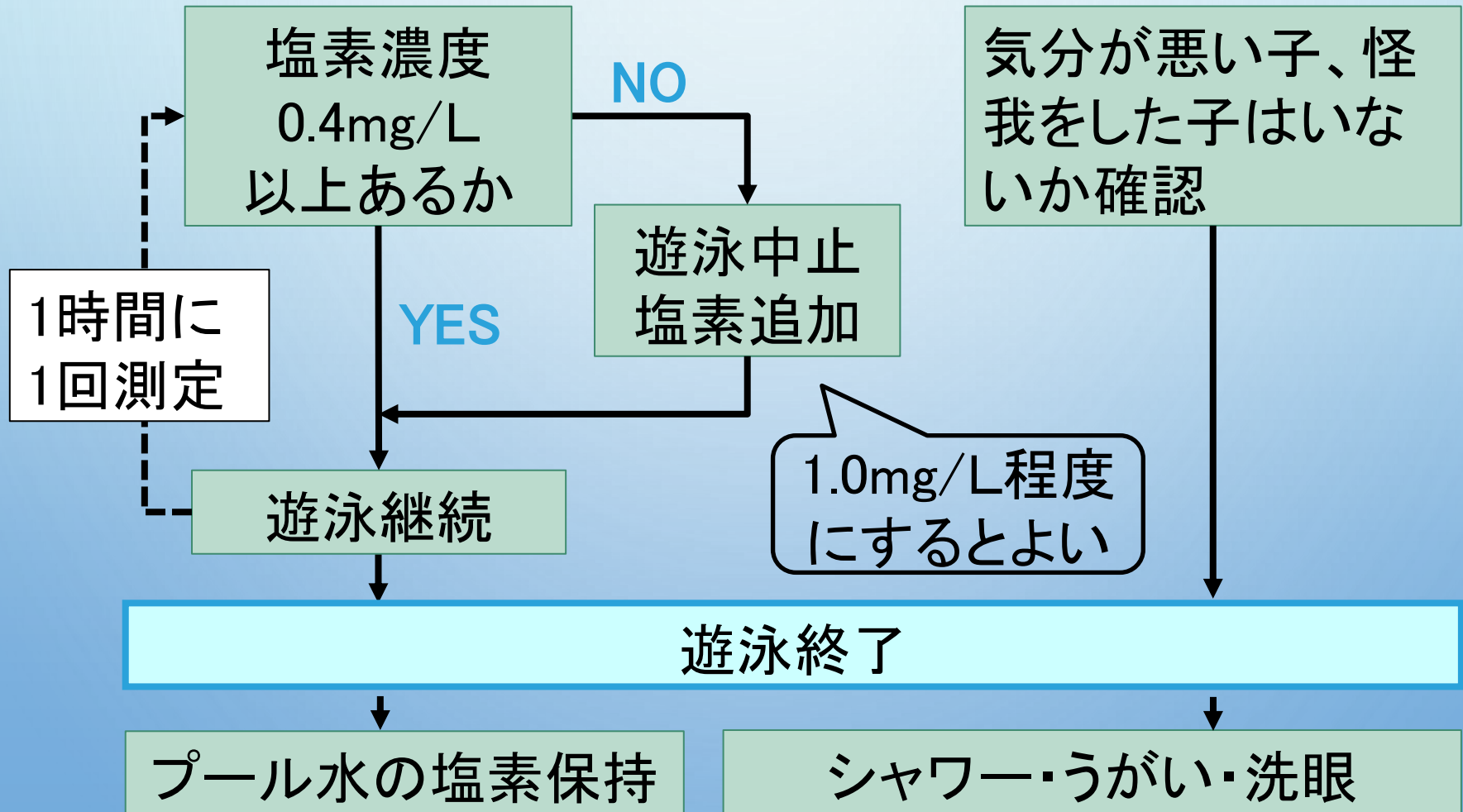
遊泳開始

プール管理のまとめ

遊泳中

プールの管理

遊泳者への注意



Q 温水シャワーが望ましいという事だが、温水シャワーがない場合は真水でお尻洗いでも良いのか？

A 水は温水より汚れが落ちにくいので、水シャワーでお尻洗いをするときには、汚れが落ちるようにていねいに洗う。必要に応じて、せっけんやボディークリームなどを使うことも考慮する。

Q 真水のお尻洗いと腰洗い槽ではどちらの方が望ましいか？

A シャワーで洗えるのであれば、シャワーで構わない。

Q 腰洗いのかわりに流水でのお尻洗いでよいといった見解もあり、どのように考えたらよいか迷っている。子ども家庭庁の感染症対策ガイドラインにある、「プール遊びの前後には、シャワーを用いて、汗等の汚れを落とす。プール遊びの前に流水を用いたお尻洗いも行う。」と記載があり、お尻洗いの方法を具体的にアドバイスが欲しい。

A シャワーで洗えるのであれば、シャワーで構わない。冷たいと子どもがシャワーを嫌がるため、温水シャワーで一人ずつていねいに洗う。

Q 子どもの人数に対する大人の見守り数は何人か？

A 子どもの人数に対する大人の見守り人数の基準はない。
監視エリア全域をくまなく監視できる人数を配置すること。

Q 見守りをする大人の交代時間の目安はあるか？

A 見守りをする大人の交代時間の目安はない。見守りをする
大人が疲労を感じる前に交代すること。

Q プール使用における水温、気温、暑さ指数の基準はあるのか？

A 基準はない。

<参考>

・水泳プール総合ハンドブック

一般の公共プール:28~30℃ 競泳・飛込プール:25~28℃

・学校体育実技指導資料第4集「水泳指導の手引」

低学年や初心者ほど水温に敏感で、一般に22℃未満ではあまり学習効果は期待できません。そのため、水温は23℃以上であることが望ましく…

- 遊泳は26℃~31℃が適温
- 気温>水温、風がないこと
- 室内プールは29~31℃が適温

毎年よく聞かれる質問

Q 1 オムツ着用の乳幼児をプールに入れても大丈夫か。

A 1 大丈夫とは言い切れない。
塩素消毒を行っていても多量の有機物と反応すると、塩素はすぐに消失する。
水着タイプのオムツも過信はできない。

「保育所における感染症対策ガイドライン」
『排泄が自立していない乳幼児には、個別のタライ等を用いてプール遊びを行い、他者と水を共有しないよう配慮する。』と明記されている。

Q 2 水は利用当日に貯めたほうが良いのか。

A 2 砂ぼこり、紫外線の影響を考えると、新鮮な水のほうが衛生的である。
水温にも配慮して、塩素管理を十分に！

Q 3 プール帽の使用について、規定はあるのか。

A 3 条例では着用を義務付ける規定はない。
衛生面や設備管理、事故防止の観点からは着用したほうが良い。

Q4 タライに入れた水に複数名が手を入れて遊ぶ時は、水を消毒したほうがよいか。

A4 同じ水で複数名と一緒に遊ぶ場合は、感染防止のため消毒をしたほうが良い。

「保育所における感染症対策ガイドライン」によると…

『低年齢児が利用することの多い簡易ミニプール（ビニールプール等）についても塩素消毒が必要である。』と明記されている。

保育所における感染症対策ガイドライン (厚生労働省 2018年改訂版)

- 排泄が自立していない乳幼児には、**個別のタライ等**を用いてプール遊びを行い、**他者と水を共有しないよう配慮する。**
- プール遊びの前後には、シャワーを用いて、汗等の汚れを落とす。プール遊びの前に流水を用いたお尻洗いも行う。

Q5 日焼け止めは使用して良いのか。

A5 日焼け止めは、汚れの要因になる。プールの形式（躯体利用、簡易FRP、ビニール）により水の入れ替え、貯水量、塩素管理が異なるため、水質に影響がない（塩素消毒の効果）のであれば使用をしても良い。紫外線の強度と日射時間、体質で影響が異なるため、ラッシュガードを着たり、日陰を作るなどの対策も併用し、皮膚が赤くなるような場合には日焼け対策が必要となる。

Q6 腰洗い槽の使用について、廃止になったと聞いているが実際はどうなっているのか

A6 シャワーで全身を洗浄できればよい。

H5年に条例が改正され、腰洗い槽の設置は必須ではなくなった。

プール水の汚染を防止するため、許可プールの基準では、足洗い場及び腰洗い槽またはシャワー（温水使用でシャワーを適温とし、必ず全身を洗浄できるもの）の設置が義務付けられている。

今年も衛生管理と事故に注意して
楽しくプールを御利用ください